



水土里情報を活用したWCS用稲の圃場確認の実施について紹介します。

今回紹介する団体： JA伊達みらい 水土里ネット福島

取組概要

内容：経営所得安定対策（水田活用直接支払交付金）の産地戦略作物として、WCS用稲の生産を実施。対象圃場の特定のため水土里情報を活用し圃場図面を作成。

経緯：①平成20年よりWCS用稲の生産を実施。それまでは手作業で着色し図面を作成していたため、多大な労力を要していた。

②生産面積が増加傾向であったため、水土里情報の農地筆と作付情報を結合、情報を一元化。

③次年度以降の作業効率向上のため農地集積を含めた作付計画の作成に利用している。

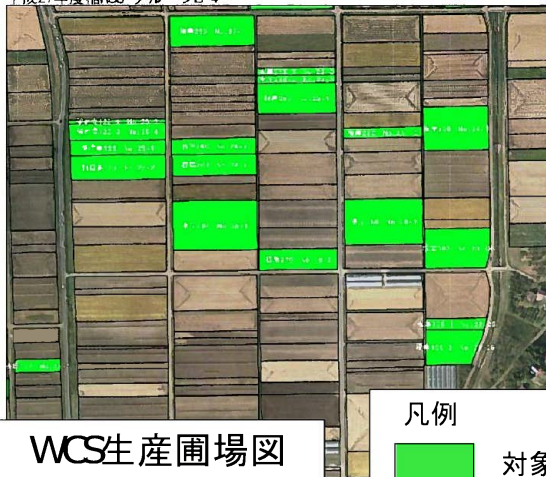
収穫作業



図面での確認状況



平成27年度稲WCS グループB-4



WCS生産圃場図

凡例

■ 対象圃場

期待される効果

1. 水土里情報システムを利用した図面作成により現地確認が簡素化。
2. 次年度作付に向け、作業性を考慮した栽培圃場の集積の検討

今後の活用予定

人・農地プランの作成にあたり、水土里情報を活用し、農地利用図等の作成を行う予定。また、多面的機能支払事業の現地確認作業への活用を検討している。

■お問い合わせ先

福島県土地改良事業団体連合会（水土里情報センター） 024-535-0383（直通）
農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室（細川、久貝） 03-6744-2201（直通）